7　おわりに

「東京都シルバーパス」は、平成 29 年度には発行枚数が初めて 100 万枚を超え、平成 30 年度には約 103 万枚を発行し、都内の 70 歳以上人口に対する発行割合は 46.1%と、多くの都民に利用されている。本調査では、今後もシルバーパス制度を持続可能なものとしていくために、幅広い年代の都民とシルバーパスの利用者について、制度に対する意識や考え等、シルバーパスの利用状況等を把握することができた。

シルバーパスの認知度について、20 歳～69 歳では、シルバーパスを「制度の内容を含めて知っていた」と「内容はよくわからないが聞いたことがあった」を含めると 89.1%であった。また、70 歳以上の高齢者がシルバーパスを所持していない理由として「シルバーパス制度を知らなかったため」と回答した人は 7.0%に留まっており、全体としてシルバーパスの認知度は高いことが分かった。

また、シルバーパス利用者のパスに対する評価は、「役立っている」と「まあ役立っている」の合計が 95.8%であり、利用者の多くがシルバーパスを評価している。

一方で、70 歳以上でシルバーパスを持っていないと回答した人（47.2%・882 人）がパスを所持していない理由は、「シルバーパスが利用できる交通機関をあまり利用しないため」が 43.8%と最も高く、次いで「自分・家族の車やタクシーを利用しているため」(31.9%)となり、環境によってシルバーパスの利用に違いがある事が分かった。

70 歳以上の普段の外出回数を比較してみると、「週 5 回以上」外出している人は、シルバーパス所持者 46.9%、未所持者 46.9%と差がなかったが、バスの平均利用回数を比較してみると、シルバーパス所持者 5.3 回、未所持者 1.0 回と差があった。本調査においては特定の 1 週間を調査しており、単純に年間平均等に換算することはできないが、この結果から、シルバーパスが高齢者の移動手段の選択に影響を与えていることが想定される。

シルバーパスの利用目的では「買い物」が約 6 割と最も多く、次いで「通院」が約 5 割、「趣味の活動」が約 4 割となっており、日常生活や社会参加のために活用されていることが分かった。一方 20,510 円パスの利用者は 1,000 円パスの利用者に比べて「趣味の活動」や「通勤」が多いなど、券種によって利用目的には若干の違いが認められた。

利用者負担額に関しては、住民税非課税者の 1,000 円について、「1,000 円は安いと思う」が全年齢の合計で 49.7%、70 歳以上でも 44.6%であり、「適切な金額だと思う」（全年齢の合計で 36.6%、70 歳以上で 36.8%）を上回った。一方、20,510 円については、「20,510 円は高いと思う」が全年齢の合計で 32.9%、70 歳以上では 28.3%であり、「適切な金額だと思う」（全年齢の合計で 32.3%、70 歳以上で 25.1%）と評価が分かれた。

シルバーパスの事業費用に対する考えについて、全年齢の合計では、「費用が増加しないよう、制度を見直すのがよい」が 25.7%と最も高く、次いで「本人が負担する金額を上げるのがよい」22.8%、「本人が乗車ごとに一定額を支払うのがよい」21.0%、「都の税金による支出を増やすのがよい」15.5%となったが、「都の税金による支出を増やすのがよい」の回答者を年齢

別にみると、20 歳代は 8.2%、70 歳以上は 17.6%となるなど、年齢によって考え方に違いが見られた。

シルバーパスのこれからのあり方に対する考えをみると、「今のままでよい」については、シルバーパス所持者が 49.4%、未所持者が 20.2%と差があり、パスの所持の有無によって考え方に違いがあることが明らかになった。

また、利用者の実感や、制度のあり方などについて、自由意見欄に多数の意見、要望の回答があり、シルバーパスについて多様な意見がある事が分かった。

このように、今回の調査によって、シルバーパスの利用状況や、利用者を含む幅広い年代の都民の制度に対する考え等について、その概要を把握することができた。一方で、今回の調査回答の背景にある高齢者を取り巻く地域の状況や環境など、さらなる把握が必要な事項も明らかになった。

○　高齢者の社会参加の実態

シルバーパス制度発足当時と比べ、医療技術の発達等により、高齢者の健康寿命は延伸している。また、定年が 60～65 歳に延長され、働く高齢者が増える一方で、ひとり暮らしや高齢者のみ世帯が増加するなど、高齢者の生活環境等は変化している。高齢者の社会参加の有無や、社会参加の実態、社会参加しない場合の理由等も様々であると思われる。

○　都内区市町村における高齢者の社会参加促進の取組とその課題

高齢者の人口が増加する一方、若年人口が減少し、超高齢社会に突入している。介護予防や生活支援サービスの充実に向けて、元気な高齢者は地域の担い手としても期待されており、身近な地域において様々な通いの場が作られるなど、高齢者の「社会参加」の実態も変化している。区市町村における社会参加促進のための支援策や、その課題も様々であると思われる。

○　将来の利用者となる世代の意識・意向

今回の調査では、シルバーパス制度の対象年齢未満である世代の現在の制度に関する考え方についても把握できた。今後、社会情勢や生活環境の変化に伴い、現在のシルバーパス制度の対象世代とは、意識や意向が変化していくことも考えられる。若年層の意識、意向のほか、近い将来の利用者となる 50 歳代、60 歳代が考える望ましい社会参加や移動支援についての意識や意向については、今後も把握に努めることが重要である。

○　地域交通事情等の変化

シルバーパス制度発足当時と比べ、従来からの路線バスに加えて、コミュニティバスやデマンドバスの運行など各地域で様々な取組があり、また、地域公共交通に関する法制度も変化している。都民の移動実態について、目的や手段等、どのように移動しているのか把握が必要と思われる。

○　他自治体での取組状況

高齢者の社会参加の促進や移動支援については、地域の実情等に応じて政令指定都市などを中心に他自治体でも敬老乗車証の発行などの取組が行われている。東京都シルバーパスとは事業の適用範囲や対象となる交通事業者数などに違いはあるが、各自治体では、制度の持続可能性や利便性の向上を図るために見直しを行うなど様々な工夫をしている。

現在のシルバーパス制度開始から約 20 年が経過し、高齢者の生活環境や健康状況は大きく変化している。

こうした中で、本制度の目的である、「高齢者の社会参加を助長し、もって高齢者の福祉の向上を図る」（東京都シルバーパス条例）を実現していくためには、今後これらの事項を把握するとともに、その調査結果も踏まえて、都における高齢者の社会参加に関する様々な施策のあり方を検討する中で、シルバーパスのあり方を検討していくことが必要である。